

令和2年度地震・津波防災訓練 (内閣府・三重県木曾岬町)

実施報告書 (概要版)

三重県木曾岬町について

木曾岬町は、三重県の北東端に位置し、木曾川や伊勢湾に面した、海拔ゼロメートル地帯である。

昭和34年の伊勢湾台風では、全域が水没する等により死者328名の尊い命が失われるなど、これまでにいくつもの災害が発生しており、まさに「水との闘いの歴史」が繰り返される町である。

南海トラフ巨大地震による大規模災害の可能性に対応するため、平成27年度から平成30年度までに、全町民が避難できる「指定緊急避難場所」を町内13箇所に完備した。

また、海拔0m地帯特有の地形により、一度浸水すると長期間にわたり避難生活が必要となることから、事前に予測できる台風についての町外への広域避難訓練を、伊勢湾台風60周年の契機である令和元年に実施した。

令和2年度には、各災害の避難のタイミングや「津波・洪水・高潮」ハザードマップを含む防災ガイドブックを発行し、さらなる安全・安心なまちづくりに取り組んでいる。



出典：国土地理院

訓練概要

- ◆訓練想定：令和2年11月5日、午前10時00分に、南海トラフを震源とする巨大地震が発生し、木曾岬町で最大震度7を記録、木曾岬町には86分後に津波が到達し、最大で2.7mの津波が襲来する見込みであるとの想定で、木曾岬町は直ちに住民に対し津波からの避難を呼びかけた。
- ◆実施日時：令和2年11月5日（木）10：00～12：00
※ 訓練前WS：令和2年 9月17日（木）13：30～16：00
訓練後WS：令和2年12月15日（火）13：30～16：00
- ◆主催：木曾岬町、内閣府
- ◆参加者数：約500名
- ◆参加機関：町内全17地区自主防災会、木曾岬小学校、木曾岬中学校、木曾岬、こども園、木曾岬町消防団、桑名市消防署木曾岬分署、桑名警察署、三重県、町指定緊急避難場所協定締結企業（中部畳材(株)、石田鉄工(株)、はごろもフーズ(株)、木曾岬町プラント、浅井工業(株)）

訓練の評価

- ◆コロナ禍という制約の中での訓練環境であったが、ワークショップ及び防災訓練（実動）を通して住民、小・中学生、こども園児及び指定緊急避難場所協定締結企業が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。
- ◆ワークショップ（以下、「WS」という。）
 - 訓練前のWSにおいては、町における地域の地理的特徴等を踏まえ、災害リスクの理解、被害状況や災害時の避難行動のイメージ等について検討した。
 - 訓練後の検証WSにおいては、実動訓練を通じて気付いた点や改善事項等について振り返るとともに、グループで活発な意見交換や検討を行うことにより、将来的に整備する地区防災計画の資を得ることができた。
- ◆防災訓練（実動）
 - コロナ禍の中、感染防止対策を徹底したうえで町全域を対象に訓練を実施し、最寄りの指定緊急避難場所への迅速な避難、到着後の確実な安否確認や災害対策本部への避難状況報告等が訓練できたことから、木曾岬町住民、学校、こども園、役場の職員の方の地震・津波への防災への意識の高さを感じることができた。
 - 避難の際に非常持出品袋の携行を周知していたが、携行者は少なかったなど、訓練の成果を評価する意見とともに、今後の改善に資する意見なども見られる有意義な訓練となった。

訓練内容

9月17日13:30～16:00 事前ワークショップ

実動訓練の実施に先立ち、三重大学の川口准教授をアドバイザーに迎え、木曾岬町内のモデル地区を対象に事前ワークショップを実施し、津波避難を踏まえた地区防災計画策定について地域で検討した。

▼木曾岬町挨拶



▼事前ワークショップ



▼木曾岬町長挨拶



11月5日10:00～ 実動訓練（シェイクアウト訓練及び津波避難訓練等）

木曾岬町全域を対象に、住民等が各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

シェイクアウト訓練後、防災行政無線等による津波避難の呼びかけに応じ、小・中学生、こども園児及び住民等は、最寄りの指定緊急避難場所へ避難した。

木曾岬町役場では、災害対策本部設置運営訓練が、各指定緊急避難場所では安否確認と報告等を行う情報伝達訓練等が実施され、津波避難時の対応行動等について確認した。

シェイクアウト訓練

▼木曾岬小学校



▼木曾岬中学校



▼木曾岬こども園



津波避難訓練

▼北部地区津波避難タワー（指定緊急避難場所）



▼はごろもフーズ（株）（指定緊急避難場所）



▼災害対策本部設置運営訓練（木曾岬町役場）



12月15日13:30～16:00 訓練後ワークショップ

実災害発生時における避難行動の実効性を高めるため、実動訓練の検証ワークショップを実施し、避難計画の見直し・修正等地区防災計画素案作成について検討した。

▼内閣府挨拶



▼検証ワークショップ



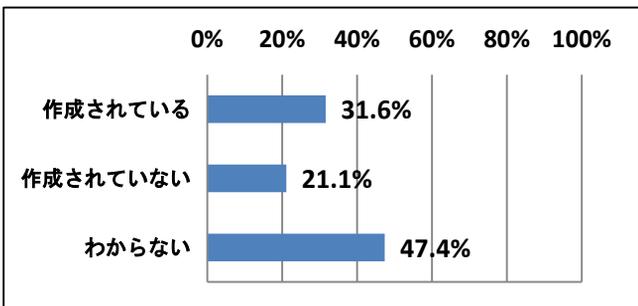
▼アドバイザー
三重大学 川口准教授



アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（訓練前WS 防災訓練（実動） 訓練後検証WS）

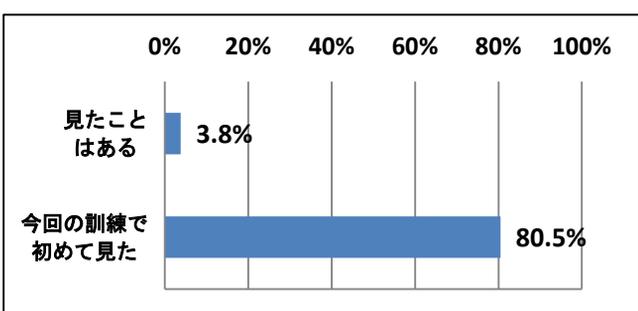
あなたの住んでいる地区独自の「地区防災計画」は作成されていますか。（回答数：19）



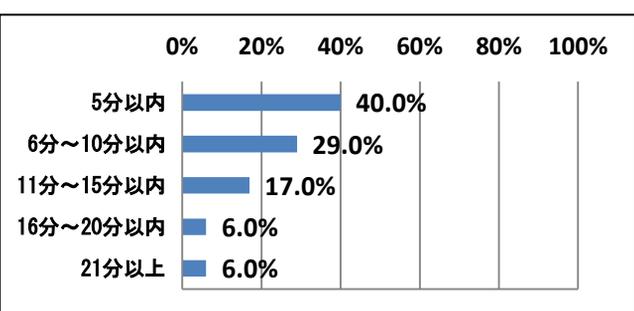
「地区防災計画」の作成（修正）に参画しようと思いませんか。（回答数：19）



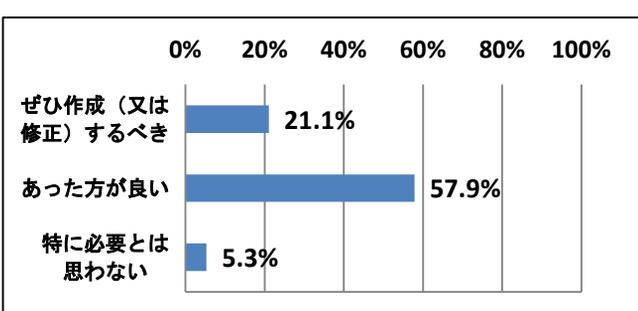
「防災ガイドブック」、又は「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。（回答数：185）



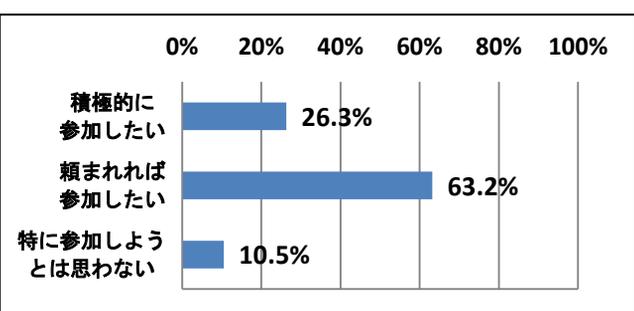
避難先（指定緊急避難場所）へは出発地（自宅等）から何分かかりましたか。（回答数：185）



「地区防災計画」を作成（修正）する必要があると思いませんか。（回答数：19）



「地区防災計画」の作成（修正）に参画しようと思いませんか。（回答数：19）



【自由意見】

（訓練前ワークショップ）

○津波が到達するまでに86分だと分かった。今まで数分で到達すると思っていた。安心するのではなく、すぐ逃げられるように準備と対策をしていきたい。

（防災訓練（実動））

○避難施設が高齢者や障がい者に全く対応できていない。下から上に上がるのにどうすればよいか？背負える人より背負われる人の方が圧倒的に多い。

○平日とはいえ参加者が少なかった。意識を高める工夫をしてほしい。

（訓練後検証ワークショップ）

○皆と検討ができ、自分では気付かなかったことが聞けて、大変役に立った。